

平成30年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
21102	無限の可能性開発講座Ⅱ Development of Limitless Potential	根間、横田 山本、伊藤	基礎	1	必修	1年後期

科目の概要

「無限の可能性開発講座Ⅰ」を基礎としたオムニバス形式の授業である。特定の職業を超えてあらゆる仕事で必要となるジェネリックスキルの修得を目的とする。授業は主にグループワークによる能動的学修法であり、「知識活用力」や「課題解決力」などの**考える力**と、「コミュニケーション能力」や「自主性・自律性」などの**生きる力**を育成する。自立した社会人として、一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を活かしつつ組織や社会の中で貢献できる能力を身に付ける。具体的には、食育媒体としての紙芝居及び食育川柳を作成し、それを用いてプレゼンテーションを行う。また、授業の一環としてキャリアカウンセラーとの面談(気づきの会)を行う。

学修内容	到達目標
① プレゼンテーションの目的や多様性および5W1Hによる実践法を知る。	① 目的、効果、方法、表現方法等を理解して相手にわかりやすい発表方法を選択することができる。
② 食育の媒体として紙芝居、イラスト、シナリオ、ストーリーの組み立て方および作成法を知る。	② 食育に不可欠な媒体の一つである紙芝居の創作に必要なミニマムスタンダード(イラスト、シナリオ、ストーリー)を理解し実践できる。
③ 対象集団に存在する食生活の課題を解決するために「序論、本論、結論」を導き出す方法を知る。	③ 対象集団の食生活改善に向け、3部構成を利用した話題の展開ができる。
④ 政府刊物や各種学会発行の資料等を収集し、エビデンスを確立する方法を知る。	④ 科学的根拠に基づき論理的な話題の展開法を理解し実践できる。
⑤ 与えられた条件に基づき作品を制作し、対象者にわかりやすく伝えるための方法を知る。	⑤ スライドや図表を効果的に活用し、対象者に見合った技法を用いて発表できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	食育媒体を創作するという目標を達成するため、分担作業などの与えられた責任を果たし、また、積極的に資料や参考文献を使って自学自習をすることができること。
	働きかけ力	
	実行力	到達目標及び評価方法等を確認して、期限までに紙芝居と食育川柳を完成すること。そのための手順や方法を反復して考えて、予習や復習に取り組むことができること。
考え抜く力	課題発見力	ただ単に作品を仕上げるのではなく、対象集団の分析によって課題を把握し、また、その課題を改善することの必要性を対象者に提示することができる。そのうえで科学的根拠に基づいたアプローチの方策を推測することができること。
	計画力	毎回の授業の予習と復習により、アクションプランに沿って作品を完成できる。また、進捗状況を確認することによって計画の見直しや修正ができること。
	創造力	他の科目で学んだ知識を有機的に活用し、固定観念に捉われないこと、多角的に考えることができること。
チームで働く力	発信力	グループ内で文献を検索し知見をまとめ、聞き手にわかりやすいように工夫して発表ができること。また、声の大きさや話すスピードを工夫し、専門用語を聞き手に理解しやすいように伝えることができること。
	傾聴力	他人の意見を聞く際「あいづち」や「うなづき」で確認し、自分の意見を述べるができる。また、自己主張を押し切るのではなく、建設的な議論をすることができること。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	自制心を以って授業に参加すること。無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、実施要領やルールを守り授業を円滑に進行するための行動ができること。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

- ・社会人基礎力を育む学泉ノート「無限の可能性への道」 本学編
- ・授業の進捗に応じてプリント類、紙芝居作成条件およびプレゼンテーションの実施要領を配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連:無限の可能性開発講座Ⅰ、キャリアデザイン講座、栄養士学外実習
資格との関連:特記なし

学修上の助言	受講生とのルール
「生きる力」とは何か、自問自答しながら授業に臨むこと。また、自分に無限の可能性があることを信じ、失敗を恐れず取り組むこと。また、文章力をつけておいてください。	遅刻や欠席、早退はグループメンバーに迷惑がかかることので、厳に慎むこと。また、外部講師との「気づきの会」では課題レポートを期限内に提出すること。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験			
小テスト			
レポート	20	① ② ③ ④ ⑤	課題①「短大生活で私が成長した社会人基礎力」800字程度(10点) 課題②「栄養士学外実習で活かしたい社会人基礎力」800字程度(10点) なぜ社会人基礎力を育成するのか理解したうえで、今後の学修にどのように活かしていくのかについて具体的に記述され、意欲的に取り組もうとする姿勢がみられること。 このレポートは「気づきの会」で活用する。
成果発表 (口頭・実技)	50	① ② ③ ④ ⑤	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓ ⑤ ✓ 食育川柳および食育紙芝居の成果発表を行う。 技能や発表態度、作品の完成度高くチームワークが発揮されていること。 目的、効果、方法、表現方法等を理解して相手にわかりやすい発表方法を選択できていること。 対象集団の食生活改善に向け、3部構成を利用した話題の展開ができていていること。 成長した社会人基礎力について、具体的に例をあげて説明できること。 プレゼンテーション評価票に基づき下記の10項目を評価する。内容が科学的根拠に基づいて作成され対象集団に合致していること。また、質疑応答において的確に答えることができること。 (評価項目:表現技能、発表態度・意欲、チームワーク、内容の具体性、知識や理解度、作品技能、創意工夫、発表時間、学修成果、社会人基礎力の発揮状況)
作品	20	① ② ③ ④ ⑤	① ② ✓ ③ ④ ⑤ ✓ 実施要領を遵守した規定作品で、かつ対象者に合っていること。 (優れた内容で完成度が特に高い:20点、完成度が高く表現に工夫が見られる:15点、完成はしているが表現方法に工夫と努力が必要である:10点)
社会人基礎力 (学修態度)	10	① ② ③ ④ ⑤	① ✓ ② ✓ ③ ✓ ④ ✓ ⑤ ✓ 「主体性」目標に向かって指示がなくても、文献等を参考に自学自習ができること。 「実行力」紙芝居を完成するための手順や方法を考えて、目標に向かって活動できること。 「課題発見力」対象集団を客観的にとらえ、科学的根拠に基づいてまとめることができること。 「計画力」作品の完成に向けて臨機応変に計画の見直しや修正ができること。 「創造力」収集した資料を多角的に考え、それに沿ってシナリオ化、イラスト化することができること。 「発信力」相手に伝えたいことを的確に発信するため、声の大きさ、話すスピードなど工夫して発表できること。 「傾聴力」毎回の授業の締めくくりとして行う業務報告においては、他のグループの発言をしっかりと聞き、またメンバーの意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができること。 「規律性」自制心を以って授業に臨むこと。無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業を円滑に進行するための行動ができること。
その他		① ② ③	① ② ③ 「気づきの会」の無断欠席者は10点減点する。また、グループワークにおいて非協力的態度が見られる場合は5点の減点となる。
総合評価 割合	100	✓	作品やプレゼンテーション及び授業態度の成績を総合して評価する。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>★目的に見合った表現方法を習得して、しっかりポイントをおさえ、対象者にわかりやすい発表ができる。(①)</p> <p>★紙芝居の創作に必要なイラスト、シナリオ、ストーリーを論理的に展開し、充実した作品を制作することができる。(②)</p> <p>★政府刊行物や各種学会発行の資料等をしっかり収集し分析してまとめ、話題を展開することができる。(③)</p> <p>S(秀) = ① + ② + ③、A(優) = ① + ②</p>	<p>★目的に見合った表現方法で対象者に向けた発表ができる。(①)</p> <p>★紙芝居の創作に必要なイラスト、シナリオ、ストーリーを展開し、作品を制作することができる。(②)</p> <p>★政府刊行物や各種学会発行の資料等を活用して話題の展開ができる。(③)</p> <p>B(良) = ① + ② + ③、C(可) = ① + ②</p>

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	ガイダンス 授業の概要や進め方、グループ編成と役割分担を行う。 前期講座(I)の振り返り	講義 授業の終わりに、講義内容の振り返り (口頭で理解度を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	授業目的、方法を理解し、この授業によって得られるスキルが理解できる。	(復習)前期講座(I)の要点を復習する。 (予習)プレゼンテーションの方法や目的を調べておく。	180	主体性 実行力
2週 /	プレゼンテーションについて① 発表時間、方法、評価法、形式、規定課題、取り組み要領、注意事項について理解する。	講義 授業の終わりに、講義内容の振り返り (口頭で理解度を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	プレゼンテーションの定義、形式、場面、方法、情報の種類と活用方法について概ね理解し活用できる。	(復習)プレゼンテーションの定義、形式、場面、方法などを復習する。 (予習)聞き手の分析と情報の収集について調べる。	180	主体性 実行力
3週 /	プレゼンテーションについて② テーマとコンセプト、聞き手の分析、制約条件、情報の収集、図表とグラフの活用について理解する。	講義 授業の終わりに、講義内容の振り返り (口頭で理解度を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	テーマの設定、聞き手の分析、制約条件、情報の収集について概要を理解し活用できる。	(復習)聞き手の分析、制約条件、情報の収集について復習する。 (予習)表現の原則と多様性について調べておく。	180	主体性 実行力
4週 /	プレゼンテーションについて③ 表現の原則、アイコンタクト、表現方法の多様性を理解する。	講義 授業の終わりに、講義内容の振り返り (口頭で理解度を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	表現の原則を理解し、アイコンタクトや多様な表現方法をプレゼンテーションで活用できる。	(復習)わかりやすい表現方法のポイントを復習する。 (予習)自己紹介を例に理解を促す表現法を演習する。	180	主体性 実行力
5週 /	プレゼンテーションについて④ 演出法として配布資料の使い方、ビジュアル効果、図表とグラフの活用について学ぶ。	講義 授業の終わりに、講義内容の振り返り (口頭で理解度を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	配布資料の必要性和図表とグラフの活用について理解し、発表で活かすことができる。	(復習)ビジュアル効果、図表やグラフの活用について復習する。 (予習)気づきの会に向けて、短大生活のビジョンや目標をまとめる。	180	実行力 創造力
6週 /	「気づきの会」 キャリアカウンセラーとグループで面談し自己の行動特性に気づく。	グループ面談 面談の終わりに、アンケート (質問に記述で答えた後、フィードバックする) 外部講師4名 (根間・横田・山本・伊藤)	講師との質疑応答ができ、自己の考えや意見を簡潔に主張できる。 面談後は仲間の発言も参考にして自己評価ができる。	(復習)面談者からのアドバイスや指導内容、感想をまとめる。 (予習)自己実現に向けた抱負を800字程度にまとめる。	180	傾聴力 課題発見力
7週 /	規定演習・グループワーク① テーマ(課題)に沿ってグループ活動を行い、紙芝居と食育川柳創作に向けた活動計画及び到達目標を作成する。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施 (各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	テーマに基づいてグループ活動計画の作成に参画し、自己の意見や考えを発言できる。	(復習)活動計画と到達目標をシミュレーションする。 (予習)5W1Hの効果と活用場面を予習する。	180	傾聴力 課題発見力
8週 /	規定演習・グループワーク② 与えられた課題から①過去はどうであったか、②これからどのようになるのか(予測)、③なぜそうなったのか(解析)についてまとめる。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施 (各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	課題から①過去はどうであったらどうか、②これからどのようになるのか(予測)、③なぜそうなったのか(解析)の議論の中で、意見を述べることができる。	(復習)分析、予測、解析の方法や意義について復習する。 (予習)課題解決のプロセスを想定し、やる気を起こさせるプランを考える。	180	傾聴力 課題発見力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	規定演習・グループワーク③ 対象集団に課題が発生するまでの経緯を追及し、解決するにはどうすれば良いのか、グループで話し合う。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施(各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	発見した課題に対して、そこに至るまでの経緯を追及し、解決するにはどうすれば良いのか、グループ討議に参加できる。	(復習)課題解決に向けて、どのように取り組めばよいか、復習する。 (予習)行動変容に繋げるためのポイントを調べる。	180	傾聴力 発信力 創造力
10週 /	規定演習・グループワーク④ 解決策を如何にして相手に分かり易く伝え、理解させ行動変容に繋げるか、その方法やポイントについて話し合う。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施(各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	解決策を如何にして相手に分かり易く伝え、行動変容に繋げるか、その方法やポイントを理解し実行できる。	(復習)相手に分かり易く伝え、行動変容に繋げる方法やポイントを復習する。 (予習)目標設定はどうあるべきかについて調べておく。	180	傾聴力 発信力 創造力
11週 /	規定演習・グループワーク⑤ 解決に向けた目標を大・中・小に分類し、対象者に見合ったアプローチの計画を作成する。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施(各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	目標を設定し、対象者に見合ったアプローチの計画を主体的に作成できる。	(復習)大・中・小の目標を設定するための諸条件や方法について復習する。 (予習)食育川柳のオリジナル案を2つ以上考える。	180	傾聴力 発信力 計画力
12週 /	規定演習・グループワーク⑥ 食育の実践に向け効果的表現法やビジュアル効果、図表とグラフなどを工夫した演出を考える。また、食育川柳を発表する。	グループワーク 授業の終わりに、各班の活動報告を実施(各班の代表による活動報告を確認した後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	食育を展開するための効果的表現法やビジュアル効果、図表とグラフなどを工夫して演出できる。また、食育川柳が発表できる。	(復習)表現法やビジュアル効果、図表などを再点検する。 (予習)紙芝居のシナリオやイラストおよび役割分担に基づいて演習する。	180	発信力 規律性
13週 /	プレゼンテーション① 作成した進行表やシナリオに沿ってリハーサルを行い、結果を顧みて本番に備える。予行演習をとおして緊張を克服する。	発表会 各班の発表後に講評(審査員が口頭で、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	進行表を準備してグループでリハーサルを行い、結果を振り返り、課題を見つけて本番に備えることができる。	(復習)リハーサルの結果を振り返り、自己の課題を修正する。 (予習)発表時間など実施要領に沿って予行演習する。	180	発信力 規律性
14週 /	プレゼンテーション② 制作した紙芝居を媒体として、プレゼンテーションを行い相互評価する。これまでの学習成果を活かし、作成基準や発表要領に基づき実践する。	発表会 各班の発表後に講評(審査員が口頭で、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	紙芝居を媒体として、これまでの学習成果を活かし、プレゼンテーションを行うことができる。また、グループ内での役割を果たすことができる。	(復習)これまでの学習成果について相互評価をとおして復習する。 (予習)この授業をとおして成長した社会人基礎力をまとめる。	180	発信力 規律性
15週 /	取り組みの総括 グループ活動や自己の取り組みが、到達目標と比較してどうであったか総括する。	講義 授業の終わりに、各班の活動報告を実施(各班の代表による総括後、フィードバックする) (根間・伊藤・横田・山本)	これまでの授業を振り返り、学習到達目標と比較して総括し、レポートにまとめることができる。	(復習)グループや自己の活動状況を振り返り、到達目標と比較しながらレポートにまとめる。	180	課題発見力 主体性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力